

掛川市立総合病院・看護部教育委員会

nurse cap ナースキャップ

教育だより
No.41

平成16年12月27日



看護を振り返る会



〈現地研修〉

高齢化社会が目前になり、自分もその一員となる日も近いと思う昨今です。看護を振り返る会の研修に参加し、訪問看護の現地に同行する機会を得ました。療養環境のよいのに感動です。家人は門先に待っていて、駐車の手助けをしてくれました。案内されると南向きの明るい居室にベッドで療養されており、下着・タオル・湯など介護用具が全て準備完了です。訪問看護師により全身・口腔清拭・陰部洗浄・下着オムツ交換などが出際よく介護され、拘縮のりハビリも行なわれて、家人にも療養介護の暗さはなく笑顔で応じてくれていました。褥瘡は痂痕状態になっていましたがその面積の広さに驚かされ、これまでの訪問看護師の努力を充分に感じ帰路に着きました。

手術室 戸塚笑子
山崎康子



目標への取り組みと結果

環境整備の 充実と仕事の 効率化



5東 村松久子
十二月のヘルパー研修の発表日が近づくと、どの病棟も発表準備に余念がありません。私達の目標は、環境整備の充実「仕事量を数字で把握することにより効率化を測る」の二点と、三年間続いている、誕生日カードの作成と癒しのディールームの提供です。四月から消化器科の移動により検査量がふえて更に忙しくなりました。ヘルパー四人が、協力して仕事をするために、チームワークが第一。八月の機能評価時には、徹底した環境整備を行いました。忙しい中での誕生日カード作

成は、配膳時の柄付エプロンの着用と共に、家庭的だと好評でした。ディールームは、面会や付添者の食事などホッとする場所です。捨てられていた観葉植物を手入れして、きれいな花を咲かせ癒しの場としました。私達ヘルパーに何が必要とされているか、常に考え行動し「継続は力なり」をモットーにして頑張ってきたと思います。毎年発表方法も進歩し、読む発表から見やすく、理解しやすい統計表や画像展開なども学んでいきたいと思えます。



施設見学【あすなる】に行きました。 H16.9.29 2班

助・手・研・修

目標への取り組みと結果

歯みがき指導 『ビデオ完成』



3東 小柳津雅
皆さんこんにちは。私たち

ヘルパーは、自らの資質向上の為に目標を持って毎日の業務に取り組んでいます。私たち3階東は小児病棟ということもあり、慣れない入院生活でストレスを感じているのではないかと思われる子供達に、楽しく生活習慣を指導できたらいいなーと思ったのが始まりでした。
2年前に「歯みがき」「手洗い」「うがい」の3つの指導でスタートし、昨年は子供達の食生活や成長にも関わりのある「歯みがき」の指導に仕上げ、今年は継続して指導ができる様にビデオを作ることにしました。資料集めには幼児

指導本を参考に楽しく興味を引きそうな教材を選びました。人形作りは思ったより楽しく、だんだん形になっていくのがうれしいことでした。ストーリーも考え台本作りました。いよいよビデオ作りのスタートです。動きながらセリフを言うのは難かしいと思い、先に吹き替え録音をしました。いよいよビデオ撮り。顔のメイク、動きの恥かしさはありましたが、早くビデオを完成させたい一心で大真面目に取り組みました。こうして今年の暑い夏と共に、私たちの集大成であるビデオが完成したのです。





講師 榛原総合病院
副看護部長 名波まり子氏

ケアとしての死化粧

4西 伊藤一子

私は看護師として今までに何人もの死を看取り、死後の処置に携わってきました。その時の思いは「見た目をきれいにしておきたい」という事でした。

今回のお話を聞き、エンゼルメイクの持つ意味の深さを知りました。



“家族の見守る中で...” H16.12.8

持ち寄りのメイク道具ではなく、専用のメイク道具を使う事や、その種類の豊富さに驚きました。そして、私達がするのと同じやり方でメイクをする事こそ、人として尊重する事につながる、これは処置ではなく、一つのケアであるという事が分かりました。また、家族が見守る中、家族と共にエンゼルメイクをする事が亡くなられた方への家族の思いが明らかになり、家族の求めているその人らしさが表れた身支度ができる。家族が死を受け入れるための準備の時として、その事が大切であるという事を感じました。

そのためには家族に見せられるケアでなくてはなりません。それには物品の準備も必要ですが、何よりこれに携わる私達の意識が変わることにあると思います。私はぜひやれるところから取り組んでみたいと思いました。みなさんはどう思われましたか。

トピックス

東海北陸地区 看護研究発表

『全身麻酔での手術中の患者を待つ家族が抱えている、不安やストレス』についての実態調査』

2西 名倉和子・三枝朗子

5時間かけて富山駅に着く。駅を降りると遠くに雪化粧した南アルプスの山々が見えた。会場は国会議事堂の様に大きく見え、大変緊張した。他施設の発表はとて新鮮だった。



富山城跡公園にて 11月16・17日

自治体病院学会 研究発表 in 広島

H16.11月11・12日

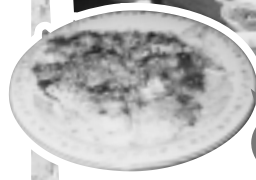
『小児の点滴中におけるトラブルと発生要因の実態調査』

3東 澤万記子

広島へは、高校の修学旅行以来久しぶりに行きました。台風により倒壊した厳島神社の神殿も修復作業が進む中、とてもきれいに色づいたもみじの紅葉をみて心が和みました。

おいしかった!!

緊張して発表後の“ホッ”と一時



発表
7題

今年も看護研究に取り組みました。

「重症室に入院する患者の家族が看護師に望むこと」

2E Aチーム
急性期の患者様の家族から頂いた意見や言葉を受けて患者様の家族が看護師に何を望んでいるのかアンケート調査を実施しました。その事により、家族のニーズを取り入れ精神的ケアをするための病態知識やコミュニケーション技術の不足を改めて考える事ができました。

研究取り組みメンバー
和田 柴原 一色 黒田加 松浦美 堀川

患者様への情報提供が、安心した入院生活につながるか！

2E Bチーム
Bチームは、クリニカルパスのないBチームの患者様に対し、クリニカルパスを使用しなくても、一日のスケジュール内容を提供していくことで、患者様が安心して入院生活が送れたかどうかを検証してみようと考え、スケジュール画面の提示をし、説明を加える方法で行った。

研究取り組みメンバー
名倉 奥野 平出 岡本 杉山 栗田 石黒 落合

「脳血管障害を持った尿失禁患者の排尿自立に繋がるアプローチを考える」

2E Cチーム
脳血管障害を持つ患者の尿失禁を問題と捉え、排尿パターンに基づいた排尿誘導計画を立案し、5事例の患者に対して援助を行った。排尿自立できた、できないはあったが、5事例を通して尿失禁の種類を判別すること・排尿動作の変化を捉えることが大切であると学べた。

研究取り組みメンバー
長尾 黒田治 山岸 佐野 永井 伊藤 萩原 堀内 松浦時 小野寺

フローシートによる外来看護記録の検討

第一外来
短時間の外来診療や煩雑な外来看護業務の中で簡潔に記録できるフローシートを活用できないかと考え研究テーマとした。特に状態観察の必要となる化学療法を受ける患者様のフローシートを作成した。フローシートの活用は短時間で継続的に記載でき外来記録として有効に利用できた。

研究取り組みメンバー
松浦美 木又 齊藤 溝口 西村

会議における小集団活動の効果の検証

副師長・主任
副師長・主任会議に小集団活動を取り入れることにより会議の活性化がはかれるのではないかと考え取り組んだ。結果は、各グループの活性化ははかれたが、全体の会議としての議事内容の共有化が薄いと考察を得た。今後の会議のモチ方向についての検討が必要と考える。

研究取り組みメンバー
柴田 鈴木智 久保田

新人看護師の気持ちの検証 (POMSを活用して)

研究グループ
新人看護師がどのような気持ちの変化を経て職場適応に至っているのかPOMSの気分尺度を活用して検証した。当院の傾向として緊張・不安、抑うつ・落ち込み疲労混乱が継続的に高い値を示している。個人としては様々な要因があり、集団教育以外にも個別に関わる必要性を感じた。

研究取り組みメンバー
小島 服部 杉山

外来での敬称に対する患者の反応

第一外来
アンケートによる実態調査
外来では、患者様に「やさしく丁寧な呼びかけをする」ことを目的に、名前に様をつけて呼んでいる。外来受診を気持ちよく受けて頂くために、アンケート調査を実施した。今後、検討材料になればと思い、まとめた。

研究取り組みメンバー
村山 河本 溝垣 杉浦ゆ 落合



編集後記

今年台風の当たり年でよく上陸しました。何度台風の中夜勤に出勤した事か。中越地震の被害にも改めて東海地震への対策を考えさせられました。備えあれば憂いなし、私たちの取り組み課題は山積です。(松)